



富山県

# 水田転換畑におけるエダマメ・ブロッコリーの生産技術開発

富山県農林水産総合技術センター 園芸研究所

## 1. 背景とねらい

本県の園芸振興を推進するため、JAを中心に一億円規模の大型産地を目指したエダマメの生産が取り組まれています。

そこで、作付け期間拡大のため、露地での一般的な栽培に加え、県内初となるマルチ栽培による早期出荷の作型を組み入れた栽培技術の確立を目指しました。あわせて土地の有効活用のため、エダマメの後作利用についてブロッコリーの検討も行いました。



## 2. 成果の内容

○エダマメのマルチ栽培における栽培モデルを作成し、早期(単価の高い7月中旬)からの計画的出荷が可能となりました(表1)。

○施肥量は10a当たり速効性肥料20kg(N:P:K, 13%:13%:13%)とLPS40を15kg施用することにより、マルチ栽培での全量基肥施肥が可能となり、慣行に比べ窒素成分を35%削減できました。

○栽植密度は一カ所2粒播きで株間25~30cm(8,000~10,000本/10a)が適正でした(図1,2)。

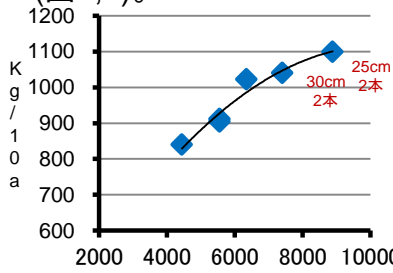


図1 栽植密度と商品重

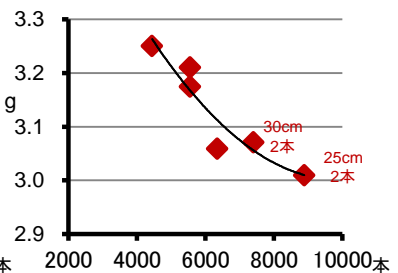


図2 栽植密度と一莢重

表1 エダマメの栽培モデル (月/日)

播種日	発芽揃い	開花揃い	収穫始め
4/10	4/25	6/9	7/16
4/18	5/1	6/13	7/19
5/7	5/15	6/24	7/29
5/23	5/30	7/5	8/6
6/4	6/10	7/14	8/14

○エダマメ後作になるブロッコリーの品種としては、「SK3-084」が品質に優れ、この品種を主体とした、10月上旬~12月中旬までの継続出荷栽培モデルを作成しました(図3)。



SK3-084 品種 ピクセル

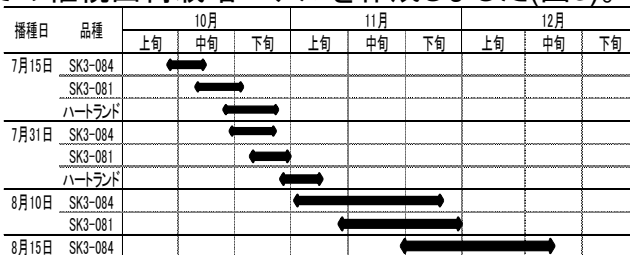


図3 SK3-084を主体とした栽培モデル

## 3. 成果の活用

エダマメ、ブロッコリーの年2作体系において、安定した生産と継続的な出荷が可能となり、一億円産地を目指す転換畑の効率的利用と地場野菜の安定生産が期待されます。